

平成26年度 教育行政評価 No1 (自己評価)

主要事業名	学校図書館の整備	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2)	生きる力の育成
個別施策	③	読書活動の充実

2 事業概要

目的	学校図書館を整備することにより、児童生徒の自主的な学習活動を支援するとともに、積極的な読書活動を充実させ、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。
----	--

3 実績

全小学校の学校図書館整備及び図書館司書（兼務含む）の配置が平成24年度に完了し、平成25年度から高松中学校を皮切りに平成26年度は鹿野中学校及び平井中学校の整備が完了した。残り2校についても順次整備を進めていく。 整備面での充実とあわせ、学校図書館司書等の活動により円滑な運営が図られ、読書の習慣化や、情報収集及びそれらを活用する能力、豊かさの育成を身につけることにつながってきているため、今後も購入図書の実践や利用しやすい学校図書館づくりに努めていきたい。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	学校図書館の整備及び学校図書館司書の配置により円滑な運営が図られている一方で、活用する人と活用しない人の差が出ている。今後も学校図書館づくりに努めていくためには、1校1人の司書の配置が望ましいため、残りの施設整備とあわせて学校図書館司書の増員が必要。
改善策	利用頻度の差の解消を図るとともに、新年度予算編成時において、学校図書館司書の増員の要望をする。

平成26年度 教育行政評価 No2 (自己評価)

主要事業名	フロンティア・アドベンチャー事業	担当	部名	教育委員会
			課名	社会教育課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2)	生きる力の形成
個別施策	④	体験学習の充実

2 事業概要

目的	フロンティア・アドベンチャー事業は、自然の中で、10泊11日という長期集団宿泊体験の機会を提供し、子ども達がさまざまな体験活動を通して、人間関係やホームシック等、多くの困難を乗り越え、生きる力（協調性・自立性・課題発見能力・問題解決能力）を身に付け、成長することを目的とする。
----	--

3 実績

今日、子どもたちは、直接体験が不足している現状であり、子どもたちに生活体験や自然体験などの体験活動の一層の充実が極めて重要な課題となっている。24回を継続して行っているフロンティア・アドベンチャーは、こうした課題解決のためにも有効な事業と考える。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	隊員として参加した子どもたちが、サブリーダーや成人指導者としてこの事業に戻ってきている。この事業が社会人として成長するうえで、どのような影響を与えたかその効果について検証していく必要がある。
改善策	平成27年度は、鹿嶋市市制施行20周年となる。これに併せてアドベンチャー同窓会を開催し、アンケート等も併せて実施する。

平成26年度 教育行政評価 No3 (自己評価)

主要事業名	市費負担嘱託・臨時職員配置事業	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	鹿嶋っ子育て課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	2	学力の確実な向上
体系項目	(1)	小中学校教育の充実
個別施策	①	基礎・基本の定着を図る教育の充実

2 事業概要

目 的	教職員が子どもたちと向き合う時間を増やして、児童一人ひとりへのきめ細やかな指導の充実を図っていくこと、児童生徒の基礎学力の定着を図ることを目的とする。
-----	---

3 実 績

	個に応じた指導の充実を図り、一人ひとりの能力を伸ばすために、質の高い専門性をもった人材の配置や、児童生徒へのサポートが必要不可欠であると考え、採用の際には選考試験を行い、採用後も特別な支援を要する児童に対する支援等の研修を行う等、職員の資質向上も行った。また、社会人ボランティアの活用、日本語指導ボランティアを活用し、体験的な学習や個に応じた指導の充実を図った。
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	TT及びATの導入による成果や必要性、学校側からの要望は多い。AT、TTの勤務時間が5、5時間と短い時間の中で、教職員との情報交換や情報共有を密に取ることが難しい場合がある。
改 善 策	より効果的なAT・TTの個別支援や教職員間の情報共有、師範塾の研修講座を地道に継続して資質向上を図ることが重要と考える。不足する部分については、指導力向上やAT、TTの役割分担などについて更に検討し、打ち合わせ時間の確保をしていく。さらに生徒理解等に関する資料を作成・配付するなど、各学校でも指導・研修を行ってもらうことで資質の向上を図っていく。勤務時間についても改善できるように検討していく。

平成26年度 教育行政評価 No4 (自己評価)

主要事業名	小学校教育研究事業	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	教育指導課・鹿嶋っ子育て課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	2	学力の確実な向上
体系項目	(1)	小中学校教育の充実
個別施策	②	健やかな心身を育む教育の充実

2 事業概要

目 的	特色ある学校教育活動や校外学習活動により充実した小学校教育の推進を図り、あわせて主体的・協働的学習の充実を達成する。
-----	--

3 実 績

	市からの委託及び補助事業等により、市内全小中学校において、年度始めに計画した内容に基づき特色ある学校教育活動に取り組んだ。
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	限られた予算の中で最大限の効果が得られるよう、事業計画の内容を精査すると共に、事業の趣旨に則した適切な予算執行をする必要がある。
改 善 策	年度当初の学校への予算説明会において、事業の趣旨をよく説明したうえで、提出された事業計画書の審査を徹底する。

平成26年度 教育行政評価 No5 (自己評価)

主要事業名	長期欠席児童生徒解消	担 当	部 名 課 名	教育委員会 教育指導課
-------	------------	--------	------------------	----------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	2	学力の確実な向上
体系項目	(1)	小中学校教育の充実
個別施策	②	健やかな心身を育む教育の充実

2 事業概要

目 的	市内の小中学生を対象に、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援を行い、学校生活への復帰を目指す。また、市内小中学校の保護者を対象に、教育上の悩みや子育ての不安を抱えた保護者の相談に応じて、不安の解消を図る。
-----	---

3 実 績

<p>適応指導教室室長及び相談員の学校訪問による相談活動や適応指導教室での援助活動が、不登校児童生徒への効果的な支援となった。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	不登校児童生徒は、学校や学級が安心して生活できる空間ではないと感じていることが多い。そこで、児童生徒の居場所づくりの実現に向けて児童生徒に関する情報交換等の連携を精力的に適応指導教室が行う必要がある。
改 善 策	各学校と適応指導教室との連携を強化する。学校が整えた居場所づくりから、児童生徒が仲間と絆をつくる環境をつくり不登校児童生徒の出現率を減少させる

平成26年度 教育行政評価 No6 (自己評価)

主要事業名	ICT教育の充実	担 当	部 名 課 名	教育委員会 鹿嶋っ子育て課
-------	----------	--------	------------------	------------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	2	学力の確実な向上
体系項目	(1)	小中学校教育の充実
個別施策	⑤	ICT教育の充実

2 事業概要

目 的	児童生徒がICTの活用を通じて情報活用能力の育成を図り、それらを通じて、子どもたちが生涯を通じて、社会のさまざまな変化に主体的に対応できるための基礎・基本の習得をすることにより、「生きる力」を育成する。
-----	---

3 実 績

<p>平成25年度に引き続き、小学校6校に無線LAN設備及びタブレット型端末を導入し、市内全小学校でのタブレットを有効に活用する環境の整備が完了したことにより、様々な授業に活用され、児童の興味・関心が高まり、情報活用能力の育成が図られた。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	教える側の教職員のサポートが必要である。また、有効な周辺機器導入に関する学校現場と事務局（予算執行側）とのすり合わせを十分に行う必要がある。
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っているリース会社で配置している支援員の活用の充実とその他のICT関係研修への参加 ・現状の授業に有効な周辺機器のための学校現場と事務局（予算執行側）の意見交換の実施

平成26年度 教育行政評価 No7 (自己評価)

主要事業名	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発言	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	社会教育課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(1)	郷土理解教育の推進
個別施策	②	伝統文化の保護と継承

2 事業概要

目 的	郷土に残る伝統文化や行事は、そこに生活する人々にとって、新しい文化の形成や豊かな人間関係を構築するうえで重要である。そのため、鹿嶋市の伝統文化に触れる機会として、「鹿嶋子ども歴史探検隊事業」や「ふれてみよう世界の文化事業」、「鹿嶋の民話」「市民音頭」の普及活動を実施する。また、歴史文化に関する展示施設の内容を充実させ、郷土への誇り、愛着を深めるとともに、次代に語り伝える後継者育成を図る。
-----	---

3 実 績

子どもたちを含め、鹿嶋市の歴史や伝統文化に触れる機会は減ってきている。郷土に残る歴史や文化、それに係る行事は、新しい文化の形成や豊かな人間関係を構築するうえで重要なものである。そこで、「鹿嶋子ども歴史探検隊事業」や「ふれてみよう世界の文化事業」、「鹿嶋の民話」「市民音頭」の普及活動を実施し、郷土の歴史文化へ触れる機会を提供し、その理解と興味を深められた。「いばらきっ子郷土検定」事業では、鹿嶋市からは高松中学校が市の代表として出場し、優れた成績を残せた。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	郷土の歴史や文化を伝えていくために、まず地元の人に興味を持ってもらうこと、その上で子どもたちの興味理解の向上や、語り部など、後世へ伝えていける人の育成が重要な課題である。
改 善 策	語り部の養成講座を充実させる。大人も子どもも、伝統行事に参加する機会や、歴史文化について学びを増やす。

平成26年度 教育行政評価 No8 (自己評価)

主要事業名	英語教育の充実	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	教育指導課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2)	国際理解教育の推進
個別施策	①	小中学校での英語教育の充実

2 事業概要

目 的	英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は英語表現に慣れ親しむことを重点に、小学校5年生及び6年生は英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることを重点目標にしている。 中学生は、小学校で慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力向上に努める。
-----	---

3 実 績

2020年に向け文部科学省が英語教育の方向性を打ち出す等、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける英語教育は将来的にも必要不可欠である。小学校においては、質の高いカリキュラムに基づく指導が各校とも同様に実施されているため、他市に比べ英語教育の質が確実に保障されており学校による差も生じていない。また、中学校においては外国人講師の効果的・有効的活用がなされ、授業公開時には他市からの参観依頼も多い。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校における英語科指導の質の向上及び4技能を総合的に育成する指導の工夫改善。 ・2020年に向け文部科学省が打ち出した英語教育の方向性と本市の英語教育計画のすり合わせ。
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校において、4技能を総合的に育成する指導の改善・充実を図るための、現行の「コミュニケーション英語」のカリキュラム及び指導法についての見直しを今年度中に行う。 ・2020年に向けた文部科学省の方向性を考慮した本市の新しい英語教育計画の策定を図る。

平成26年度 教育行政評価 No9 (自己評価)

主要事業名	中学生国際交流事業	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2)	国際理解教育の推進
個別施策	②	異文化理解と交流活動の充実

2 事業概要

目的	将来の鹿嶋市を担う中学生が、小・中学校で学んできた英語を実践しながら、韓国やカナダでホームステイ等を経験することで、日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識しながら、違いがわかり、かつ相手を理解することができる国際人としての感覚を養うことを目的とする。
----	--

3 実績

平成25年度に引き続き、中学生の国際交流事業は韓国とカナダの二カ国で実施した。参加生徒は韓国・西帰浦市が中学2年生18人、カナダが中学3年生12人であった。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	韓国・西帰浦市への派遣は平成25年度に引き続き、定数割れとなった。事業の目的・主旨を保護者及び生徒に工夫し伝える必要がある。カナダ・プリティッシュコロンビア州への派遣は、予算規模に対し、参加中学生が少ないこともあり費用対効果の点で見直しが必要とされている。
改善策	事業周知の強化（PRチラシの作成、各中学校での呼びかけなど…3月下旬～5月上旬まで）。カナダ・プリティッシュコロンビア州への派遣から国内英語研修施設への派遣へ見直し【予算規模の縮小（カナダ6,000千円から国内1,000千円）・参加人数生徒枠の増加（カナダ12人から国内24人へ）】

平成26年度 教育行政評価 No10 (自己評価)

主要事業名	スポーツ事業の開催と機会提供及び市民スポーツの支援	担当	部名	教育委員会
			課名	スポーツ推進課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	④	スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(1)	スポーツの振興
個別施策	①	スポーツ団体の育成支援
	②	地域スポーツの展開と情報の発信

2 事業概要

目的	日常生活における利便性向上での運動不足解消、高齢化の進展等による健康長寿の実現、人間関係の希薄化が危惧される地域コミュニティの充実対策等、スポーツの持つ多面性を活かし、まちの活性化を図る。
----	--

3 実績

鹿嶋市の総合計画での成人者1週間1回のスポーツ実施率50%を目標に掲げており、平成26年度のアンケートでは26%となっている。これは、前回のアンケートとほぼ横ばいの結果となった。しかしながら、スポーツ施設の利用件数を見ると前年比較で約28,500人の増加が見られた。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	平成26年度のアンケートの結果では、回答者の約4割が運動をしていないことが分かった。この内30歳代及び40歳代が8割を占める。働きざかりの年齢層に運動ができていない状況にあることから、その年代の運動実施率の向上を推進する必要がある。また、高齢者の運動施設の利用促進も課題となっている。
改善策	30歳から40歳の年代で運動しない理由は、仕事が忙しい、家事が忙しい等の理由で運動できないことから、祝日などを利用した家族で容易にできる運動の提案等の発信や、家族での小スポーツイベントの開催を行っていく。高齢者運動施設の利用促進では、運動施設の有効利用で日中に利用いただくため、グラウンドゴルフ大会等高齢者のスポーツ大会での周知活動、高齢者のための運動施設利用のプログラム作成を行い、鹿嶋市の運動実践者の増進を図る。

平成26年度 教育行政評価 No11 (自己評価)

主要事業名	各地区まちづくりセンター活動支援、芸術祭・市美術展覧会等の開催	担当	部名	教育委員会
			課名	中央公民館

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(2) 芸術文化活動の振興と文化財の保護
個別施策	① 地域に根ざした文化活動の創造

2 事業概要

目的	市民主体の特色ある事業の実施により、市民満足度の高い事業の実施並びに人材の育成を図り、協働のまちづくりを推進する。 芸術文化に触れる機会及び出品機会の提供により、その普及・啓発を図り、市の芸術文化の振興に寄与する。
----	--

3 実績

<ul style="list-style-type: none"> 市民満足度の高い事業が実施され、地区住民相互の交流による地域の連携が図られたほか、それぞれの研修会の開催により、まちづくりに関わる人材の資質向上が図られた。また、防災資料の作成並びに防災訓練の実施により、防災時の公民館の運営等について整理された。 芸術祭や市美術展覧会の開催により、鑑賞者、出品者ともに芸術に親しむ機会を提供できた。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> イベント、趣味・教養に偏向がちな事業構成から、生活課題や地域課題に対する事業の付加による事業の充実が必要。 文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや後継者の育成等が求められる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動については、地域活動支援員の積極的な関わりを通して、まちづくり委員会との調整しながら必要な事業の検討及び実施に努める。併せて、人材の発掘・育成を意識しながら業務を遂行する。 各種会議等を通じて、文化協会や活動団体へ後継者の育成を呼びかける。また灘塾等を含めた団体の連携を図り、団体のコラボ・人材の活躍の場の情報提供等により、団体並びに事業の活性化を図る。

平成26年度 教育行政評価 No12 (自己評価)

主要事業名	神野向遺跡保存事業	担当	部名	教育委員会
			課名	社会教育課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進
体系項目	(2) 芸術文化活動の振興と文化財の保護
個別施策	② 伝統文化の保護と継承

2 事業概要

目的	遺跡の範囲の広がりを確認しながら鹿嶋郡家跡の公有化を進め、史跡公園として整備し、郷土学習や体験学習の場とし、市内外の人たちが鹿嶋市の歴史に触れる場として、発掘調査を進めながら、保存整備、活用していく。
----	--

3 実績

<p>史跡のH26年度分の公有化は予定どおり達成し、検討委員会で協議された史跡整備基本構想は印刷製本をし、関係者へ配布することが出来た。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	公有化は96%まで進んでいるが、地価が年々下がっており、地権者の要望に応えることが難しくなっている。また史跡への追加指定の要望も上がってきているので、今後の史跡整備について、県、国と協議をしながら進めていく必要がある。
改善策	史跡内の地権者については、現状を理解してもらい、地道に交渉を続けていく必要がある。一方で鹿嶋市では歴史館構想が進められており、それと史跡整備計画を関連させ、史跡の保存と活用の方法を検討していく。

平成26年度 教育行政評価 No13 (自己評価)

主要事業名	学校施設の改修と整備	担 当	部 名 課 名	教育委員会 教育総務課
-------	------------	--------	------------------	----------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	5	安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(1)	教育施設の整備
個別施策	①	校舎及び園舎の改修・改築・耐震化の推進

2 事業概要

目 的	子どもの教育環境の向上のため、安全・安心な学校施設の維持管理及び改修等を実施していく。
-----	---

3 実 績

鹿島小学校大規模改造工事、大野中学校武道場解体工事及び大野中学校武道場改築工事の実施設計業務委託を実施した。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	大規模改造事業を計画的に実施するには国庫補助金の確保が大変重要である。
改 善 策	どの施設も老朽化してきている状況のため、改修時期が先延ばしにならないよう国庫補助金の確保だけでなくその他の財源を模索し、市単独費でも進めていかなければならない。

平成26年度 教育行政評価 No14 (自己評価)

主要事業名	社会教育施設の整備充実	担 当	部 名 課 名	教育委員会 社会教育課
-------	-------------	--------	------------------	----------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	5	安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(1)	教育施設の充実
個別施策	④	社会教育施設の整備充実

2 事業概要

目 的	市民や地域住民のニーズをふまえつつ、気軽に立ち寄り、利用できる環境の整備に努め、利用者の拡大を図る。
-----	--

3 実 績

勤労文化会館の大規模改修1期工事を完了し、利用者の安全確保及び利便性の向上を図ることができた。また、高松公民館の改築に向け、基本・実施設計が完了し、地域住民の施設利用の安全確保に繋がった。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	施設改修計画どおりに進めることが、財政上の理由などで遅れている状況である。
改 善 策	市民のニーズにこたえるため、施設の状況を適切に把握し、優先順位を見据え、安全・安心な最優先で適正管理に努める。

平成26年度 教育行政評価 No15 (自己評価)

主要事業名	安全・安心な子育て環境の整備	担当	部名	教育委員会
			課名	社会教育課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ		
重点目標	5	安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2)	教育を支える環境の整備
個別施策	①	安全・安心な子育て環境の整備

2 事業概要

目的	現在実施している状況を踏まえ、市民ニーズに応じるべく、学校、受託者、市が連携しながら対応をできる環境を整え、運営をしていく。隣接した場所で実施している放課後子ども教室と放課後児童クラブについては、お互いが交流し、一体的もしくは連携をして交流ができるよう推進していく。関係機関及び団体、地域と連携し青少年の健全な育成を推進する。
----	---

3 実績

<p>放課後子ども教室は、平日の部では、9小学校区(週3日から5日開催)で開催し218人が参加し、休日の部では、11か所(延118回開催)で開設し、5,244人が参加した。高学年や兄弟、保護者との下校となることから、下校の安全性が高まっている。また、昔遊びやスポーツ活動等とおして、地域の人と交流することで、社会性や協調性などの生きる力の向上が図られた。</p> <p>青少年相談員の活動は、班別活動(28回)、早朝、夜間活動(各5回)、祭り等特別一斉活動(3回)を実施した。そのほか、各小学校と連携しあいさつ声かけ運動(年2回)や相談員研修を(年2回)を実施した。さらに青少年相談員の活動を市民にお知らせするために市広報に活動報告として年3回掲載した。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	放課後子ども教室は、未実施校が市内で3校あるが、余裕教室が無いもしくは児童クラブの整備が優先されるなど、未実施である3校の実態を把握し、関係機関との連携を図り、放課後の居場所の確保に向けて進めていく。事業実施において学校の協力が必要不可欠であるため、学校との連携強化が必要である。
改善策	平成27年度は学校、事業者、市が連携を取りやすい環境を整備するため、学校の窓口となる放課後子ども教室の推進委員を推薦してもらい、定期的に打ち合わせを行うなど調整を図っていく。

平成26年度 教育行政評価 No16 (自己評価)

主要事業名	子育て講演会等の開催	担当	部名	教育委員会
			課名	社会教育課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ		
重点目標	5	安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2)	教育を支える環境の整備
個別施策	②	家庭の教育力の充実

2 事業概要

目的	保護者に対し、家庭での子どもとの関わりなど家庭教育の重要性を啓発するとともに、子育てに関する悩みや不安について、保護者が一人で抱え込まず、相談し合う機会を提供する。また、中学生に対し、性や心の教育をすることで、自分自身を大切にすること、命の大切さを学ぶ機会とする。
----	--

3 実績

<p>子育てや家庭教育及び近年問題化されているスマートフォン等のメディア関連等について、社会情勢や子どもたちの実態を踏まえた特色ある講演会を継続して行っている。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	社会情勢に見合った講演会のテーマを選定する。
改善策	アンケート結果を参考にしながら学校等と連携を図り実施する。

平成26年度 教育行政評価 No17 (自己評価)

主要事業名	教職員指導対策事業	担当	部名	教育委員会
			課名	教育指導課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(3) 教職員の資質の向上

2 事業概要

目的	教職員の専門職としての技能向上、一定の教育活動を保障するための支援及び効率的で正確な事務処理を行うための学校管理体制の構築を支援する。
----	---

3 実績

<p>学校教育の専門的事項の指導に関する職務を行う指導主事を配置し、教職員の指導や相談にあたることで、学校運営支援や教師の資質向上の面からも児童生徒の学力向上を図る。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	教職員の専門職としての技能向上、一定の教育活動を保障するための支援及び効率的で正確な事務処理を行うための学校管理体制の構築を支援する。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事の配置 ・学校管理体制等の支援

平成26年度 教育行政評価 No18 (自己評価)

主要事業名	師範塾の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	教育指導課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(3) 教職員の資質の向上

2 事業概要

目的	市民の教育への関心を高めるとともに、市内の教職員の資質の向上を図る。
----	------------------------------------

3 実績

<p>地域の教育力向上のため市民対象の講座を行うとともに、教職員対象の研修の特化を図った。自らのスキルアップに努めたいと考える教職員の専門職としての技能向上に寄与している。また、教職員試験対策講座から合格者を15人（H24：10人、H25：13人）輩出するなど実績を伸ばしている。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	教育指導員を4名配置したことにより、市費負担職員や若手教職員の相談時間の確保ができるようになったが、一方で場所の確保が困難になってきている。
改善策	平成27年度中に鹿嶋市旧保健センターへ拠点を移すことで、場所不足の解消を図る。

平成26年度 教育行政評価 No19 (自己評価)

主要事業名	高塚奨学金制度の充実	担 当	部 名 課 名	教育委員会 教育総務課
-------	------------	--------	------------------	----------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(4) 教育機会の保障

2 事業概要

目 的	教育の機会を継続的に確保するため、一定数の新規奨学生を決定し、奨学資金の有効活用を図る。
-----	--

3 実 績

<p>前年度に実施した平成26年度新規奨学生の募集で奨学生数が定員数に満たなかったため、年度当初に追加募集を行い、計25人を新規奨学生とした（①の事業）。平成26年度は、新規奨学生を含めた合計88人に奨学金の貸与を行った。また、11月以降に平成27年度新規奨学生の前倒し募集を行い、一定の奨学生数を確保した（②の事業）。奨学金返還滞納対策については、督促通知を3回実施した（③の事業）。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	平成26年度新規奨学生については、募集及び追加募集とも一定の出願があったが、結果、募集人数には満たなかった。平成27年度新規奨学生の募集についても前年と同様の出願数であり、出願数が微減傾向にある。また、奨学金返還者で複数年度に渡る滞納者の対策が課題である。
改 善 策	今後の出願数の推移を見て、引き続き出願数が減少する場合は、制度の見直しを検討する。また、奨学金返還者で複数年度に渡る滞納者の個別訪問を強化していく。

平成26年度 教育行政評価 No20 (自己評価)

主要事業名	教育委員会機能の強化	担 当	部 名 課 名	教育委員会 教育総務課
-------	------------	--------	------------------	----------------

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	5 安心して学べる教育環境づくり
体系項目	(2) 教育を支える環境の整備
個別施策	(5) 教育委員会機能の強化

2 事業概要

目 的	教育委員が地域課題を理解するための情報収集を行うこと及び教育委員会の情報を積極的に市民へ提供するにより、教育委員会の機能強化を図る。
-----	--

3 実 績

<p>教育委員による学校施設訪問を10校実施した。また、市民の声を教育行政に反映させるため、教育懇談会を2回実施した。さらに、教育委員会会議を16回開催し、議事67件を審議し可決・承認されたことについて、市ホームページに掲載した他、会議録の情報公開に対応した。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	市民の声を教育行政に反映するため、より多くの市民に教育懇談会へ参加いただき、様々な意見を聴取する必要がある。また、教育委員会会議の傍聴者が少ないため、教育に関心を持った方が会議を傍聴するよう、更なる情報公開に取り組む必要がある。
改 善 策	教育懇談会については、開催方法を再検討し、参加者数の増員を図る。また、より多くの人に会議を傍聴していただけるよう、市ホームページ等、様々な媒体にて情報発信をしていく。